

市内福祉事業者(ライフ・ステージ舞夢) ヒアリング



市内福祉事業者(ライフ・ステージ舞夢)に、事業所の人材確保や生産性向上に向けた取組状況、地域連携、福祉現場の未来の姿などヒアリングを実施。

日時:2026年1月22日(木)

場所:ライフ・ステージ舞夢

参加者:3名



市内福祉事業者(ライフ・ステージ舞夢) ヒアリング結果

1. 現状: 経営の厳しさと地域コミュニティの変容

- **運営の現状と使命:** 加佐のセーフティネットとして役割を担っているが、少子化・遠隔地コスト・物価高騰で経営は限界。
- **気候の影響:** 積雪による当日キャンセル等の食材費が施設負担となり、物価高騰も相まって経営を圧迫。
- **地域交流の衰退:** かつては川船レースなど交流が盛んであったが、コロナ禍以降は地域体力が低下。現在は施設の秋祭り等を通じて接点を作っているが、交流維持には行政の支援が必要。

2. 人材確保: 深刻な不足と外国人材の活用

- **若手人材の不足:** 新卒・若手人材が「全く足りてない」深刻な状況。以前は法人全体で20名程度の内定者があったが、現在は施設1名程度。
- **外国人材:** 約20年前から受け入れ、現在は全スタッフ81名の1割以上(10名)がフィリピン人スタッフ。20年以上の経験を持つフィリピン人リーダーが新人の育成・指導を担う体制を構築。
- **働く環境の刷新:** 制服デザインの刷新や業務の細分化(介護助手へ業務のタスクシフト)など、働きやすくなる工夫を実施。

3. DXとAIの活用: 生産性向上と課題

- **導入状況:** 全室に「眠りスキャン」を導入し、夜間の巡回負担軽減や事故検証に活用。在宅サービスではタブレットを活用し、現場での記録・共有により生産性が向上。
- **インフラの障壁:** 中山間地域特有の「電波が届かない場所」があることが、モバイル端末活用の大きな障壁。
- **今後の期待:** 自動翻訳機や「人間洗濯機」のような介護負担を軽減する技術、リスクヘッジのための見守り機器の導入を検討。

4. 未来: 地域連携と持続可能な体制

- **共同化の推進:** バックオフィス機能(事務・採用等)のシェアリングや、地域の食材を活用した「セントラルキッチン」構想、外国人材の共同受け入れなど、事業者間連携による効率化を期待。
- **横の連携(多世代交流):** 職員の子どもの地域で預かる保育連携など、働きやすさ向上に期待。
- **行政へのリーダーシップ期待:** 地域力が弱まる中、行政には事業者間や地域との「まとめ役(コーディネーター)」としての役割を期待。
- **老朽化・電気代対策:** 施設の老朽化に伴う修繕費高騰や、オール電化施設ゆえの電気代高騰が深刻であり、省エネ設備更新への補助金支援が必要。